

山中城(国の史跡, 百名城)(三島市山中新田字下ノ沢)

山中城（やまなかじょう）は、静岡県三島市山中新田（伊豆国田方郡山中）にある中世の山城跡で、国の史跡に指定されている。

北条氏によって築城され、小田原城の支城として位置づけられる。箱根十城のひとつ。

三島市によって当時を反映した整備改修がなされ、堀や土塁などの遺構は風化を避けるため、盛土による被履の上芝を張って保護し、畝堀や障子堀の構造が明確に把握できるように整備されており北条氏の築城方法を良く知ることのできる城跡となっている。

また、北条氏滅亡と共に廃城となったため、北条氏独特の城郭の構造を多く残していることが注目される。2012 年まで、5 月の第三日曜日に山中城まつりが開催されていた。（現在は中断）

永禄年間（1558 年 - 1570 年）に北条氏康により築城される。北条氏の本拠地である小田原の西の防衛を担う最重要拠点で、城は東海道を取り込む形で造られていた。

北条氏政の代に豊臣秀吉との関係が悪化すると、山中城は改修し防備を固めることになるが、結局間に合わず未完成のまま豊臣軍を迎える。1590 年（天正 18 年）、小田原征伐で豊臣秀次率いる 7 万の軍勢が山中城を攻撃、守将である北条氏勝、松田康長、松田康郷、蔭山氏広、間宮康俊ら 4 千は奮戦し、豊臣方も部将の一柳直末など多くの戦死者を出すものの、猛烈な力攻めの結果わずか半日で落城し、北条方の松田・間宮などの武将や城兵の多くが討死した。戦後、城は廃止された。

1930 年（昭和 5 年）に国の史跡に指定された。1973 年（昭和 48 年）から三島市が公園として整備をはじめ、合わせて学術的な調査もなされた。

2006 年（平成 18 年）4 月 6 日、日本 100 名城（40 番）に選定された。

Wikipedia による

